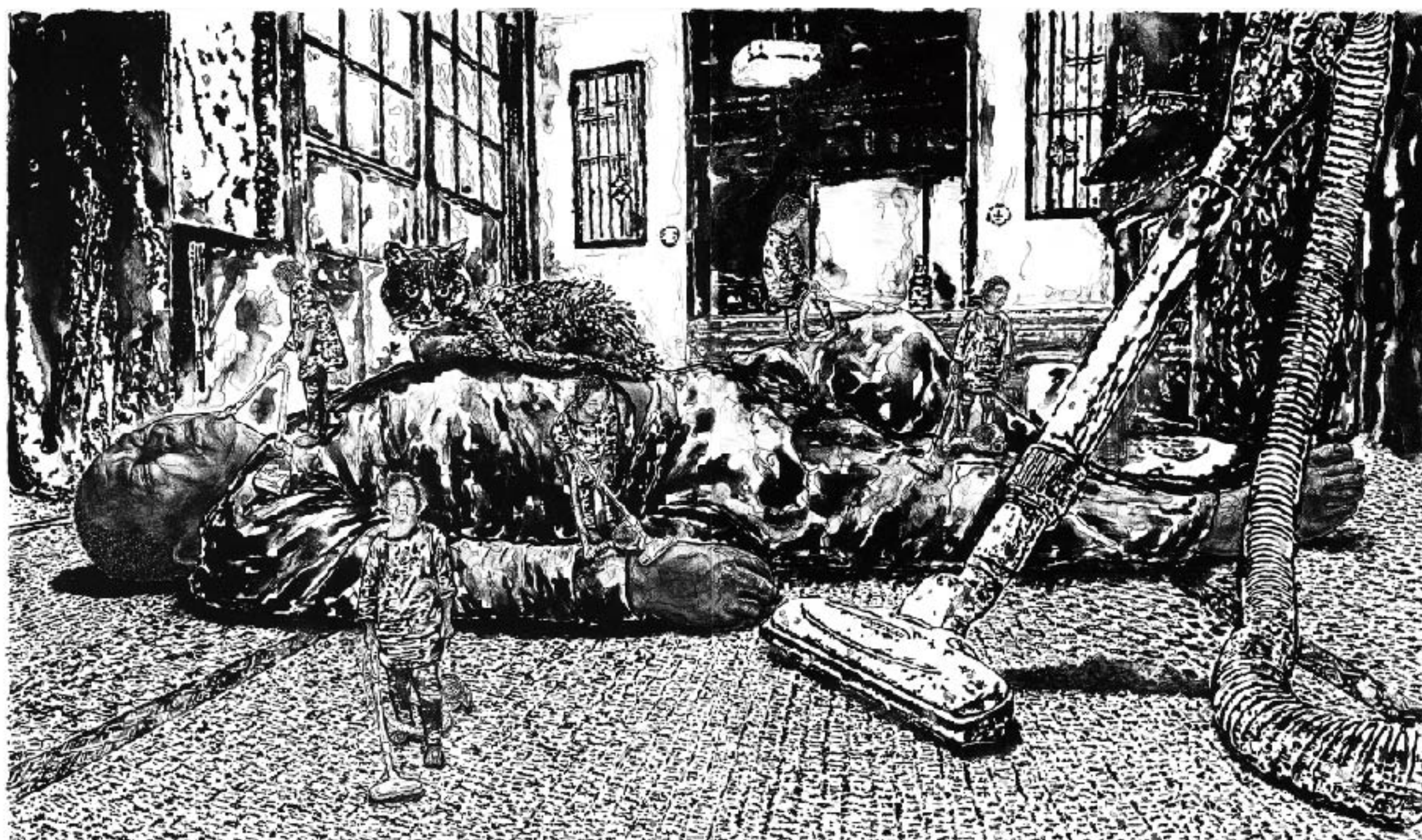


細井 彩花
HOSOI Ayaka



だすとぼくすさんでー
インク、BFK紙・リトグラフ



ないときっちゃんあいす
インク、BFK紙・リトグラフ

かけがえのない時間

私は家族や友人の何気ない自然な姿にとても惹かれます。

寝ている父の周りで母がせっせと掃除をする姿。父が夜な夜な冷凍庫を漁って、台所で隠れてアイスを食べる姿。母が10分だけ休憩とって、いびきを立てながら爆睡する姿。友達が何も言わずに私の午後の紅茶を勝手に飲み干す姿。どれも何気ない日常の一コマですが、その人らしいありのままの姿はとても愛おしくかけがえのない時間です。

しかし、同時にこのかけがえのない時間には終わりがあるのではないかと考えてしまいます。その人を失う不安が心のどこかにあるのです。

以前、大切な家族を失った時「どうして、一緒に過ごせた時間をもっと大事にできなかったのか…」と深く後悔したことがありました。いくら後悔しても時間が戻ることはないのにそのことばかり考え、何度も何度も泣きました。このような経験をしたからこそ、私は大切な人と過ごす今をもっと大事にしたいと思うようになりました。

“大切な人を失う悲しみとは、その人を失った悲しみだけでなく、その人の前でしか現れることのなかった自分自身を失うことだ。”

これは昔、どこかで見つけた言葉です。この言葉を知った時、私の胸に深く刺さりました。大切な人を失う不安だけでなく、自分自身を失う不安もあったのだと。また、家族や友人を描くことで自分の存在を肯定する意味もあるのかもしれない。

私の作品には、解墨が多く用いられています。じんわりと滲む解墨の表現は、人の心の揺れのようなのです。解墨を垂らしてできる虫食いに似たまだらは、記憶の痕跡のようにも感じられます。解墨はコントロールが難しい描画材ですが、だからこそ心の動きや内面的な表現には向いていると考えています。

私は大切な家族や友人、その人と過ごした時間、その人の前でしか現れることのない自分自身を忘れたくないという思いから家族や友人との日常の機微を作品にし続けています。失う恐怖もあるけれど、大切な誰かと過ごせる今を目一杯抱きしめて生きていきたいのです。